

ヤマハとローランド

楽器開発の魅力紹介

浜松



両社の管楽器の開発過程や魅力を紹介したトークセッション
＝浜松市中区の静岡文化芸術大

浜松市中区の静岡文化芸術大はこのほど、室内楽演奏会「交差する管楽器の世界」(静岡新聞社・静岡放送後援)を同大で開いた。

ヤマハのカジュアル管楽器ウエノヴァと、ローランドの電子管楽器エアロフォンの開発者がトークセッションを繰り広げた。

ヤマハの中島洋さんは、軽くて丈夫なりコーダーと表現力豊かなサククスを合わせたような楽器を作ろうと企画。独自の分岐管を開発した過程も明かし、「時間や場所の制約を超えて、皆さんの音楽生活に変化を加えられたら」と述べた。

ローランドの榎井秀方さんは、サククスのほか尺八やバイオリンなどの音色も奏でられる電子楽器ならではの魅力を紹介。「ソフトウエアをアップデートし、音色が増えた。面白い楽しみ方を提案したい」と意気込んだ。両社の楽器を用いた演奏セッションも行われ、来場者らを楽しませた。